

## 用語解説・索引

\*本文の推敲・直伝にてくる語は、**本文**でページを示した。出現数の多い語は省略した。

## あ行

一韻到底(いちいんとうてい)

一つの詩を、同一の韻で押韻おしいんすること。

韻(いん)

音の響き・調子。特に漢詩では、漢字の語頭ごとう子音を取り去った後ろの部分の音をいう。例えば、「間」「山」の字はローマ字で表せばkan、sanであり、anの部分の音が韻である。↓押

韻・声調 **本文** 14・32・34・43・76・79・91・141・169

韻字(いんじ)

韻をふむのに用いる字。 **本文** 33・79・91・93

韻目(いんもく)

韻の種類。平水韻では百六種の韻目がある。

本書では各詩の押韻の韻目を偶数ページの右端に掲出している。↓平水韻 **本文** 45・79・91

韻をふむ(いんをふむ)「押韻」に同じ。

詠史・懷古(えいし・かいか)

過去の歴史を振り返って思いを述べるもの。

**本文** 85・88・119

押韻(おしいん)

同じ音、同じ声調を持つ字を用いて、音調を整えること。「韻をふむ」とも。おおむね句の末尾で韻をふむ(脚韻)。同じ響きの音を一定の位置に置くことによって、耳に聞いて心地よいという効果を生ずる。↓韻

七言絶句では、一・二・四句末に韻をふむのが正しい規則(正格)。一句目にふまない形もあ

## 稽古索引

\*稽古の主なトピックを取りあげ、本文の該当箇所の解説を適宜省略して掲載した。  
 [本文]でその箇所のページを示した。

## 和語の表現・発想である

- ・「包体」は和語で、不自然。 [本文] 3
- ・「運岸」は和語。 [本文] 3
- ・「乱蟬如雨」は「蟬時雨」の字面に引きずられた和習。 [本文] 6
- ・「消音」(音を消す)は和語。 [本文] 6
- ・「曇」をくもるの意で使うのは和習。 [本文] 33
- ・「杜宇」(ホトトギス)は漢詩では初夏のさわやかさを表すのに用いない。 [本文] 49
- ・「空木花」は和語。「眼輝行」も詩語にない和語風の言い回し。 [本文] 52
- ・「吹水処」は、いかにも日本語。 [本文] 64

## 漢語の語法にかなっていない

- ・「今日此栄耀」は和語の発想。 [本文] 85
- ・「慶祝」は和語臭い。「慶賀」とする。 [本文] 100
- ・副詞は、動詞や形容詞の前に置くのが原則。「望唯」は「唯望」に改める。 [本文] 3
- ・「不耐」はこのままでは下の句にかかり、反対の意味になる。 [本文] 21
- ・「幸」一字で「さいわい」という名詞に用いるのは無理である。 [本文] 21
- ・「邀驩老孺興無疆」の並びは漢語として不自然。 [本文] 55
- ・「流船」は「覆船」に改める。 [本文] 106